

(3) 特別支援学級のスポーツ環境に関する調査

1. 調査概要

1. 1 調査目的

本調査は、地域で開催している特別支援学級の児童生徒を対象にした体育大会、運動・スポーツ大会における児童生徒の参加状況および運営体制の実態を明らかにすることを目的とする。

1. 2 調査方法

(1) 調査方法

ヒアリング調査

(2) 調査対象

以下3大会の事例をまとめた。

- ・札幌市特別支援学級体育大会「レインボーピック」
- ・さいたま市立中学校特別支援学級合同スポーツ大会
- ・三泗(さんし)小・中学校特別支援学級連合運動会

(3) 調査内容

主な調査項目は、以下のとおりである。

- ・特別支援学級の体育大会、運動・スポーツ大会の開催状況
- ・障害児・者の運動・スポーツ活動を推進するうえでの取り組み

(4) 調査期間

2016年11月～2017年2月

2. 調査結果(事例調査)

近年、障害の多様化、重度・重複化にともない、特別支援学級に在籍する児童生徒の運動・スポーツの実態も多様になっている。特別支援学級の運動・スポーツ大会の実施については、①通常学級の中で一緒に実施する大会、②特別支援学級と特別支援学校の合同で実施する大会、③特別支援学級のみで実施する大会、に大別される。①の実施については、「小中学校に在籍する障害のある児童生徒の体育の実施状況に関する全国調査」(2009年)において、運動会・体育祭などを通常学級と特別支援学級が合同実施するためにルールや内容を工夫していることが分かった。②については、「東京都特別支援学校・特別支援学級設置学校総合体育大会」や「名古屋市立小中学校特別支援学級・特別支援学校連合運動会」のような事例もみられる。本調査では、③に分類される地域で開催される特別支援学級の児童生徒を対象にした体育大会や運動・スポーツ大会について事例ヒアリングを行った(図表 3-1)。

図表 3-1 事例調査で対象とした運動・スポーツ大会

名称	事務局	特徴
札幌市 特別支援学級体育大会 「レインボーピック」	札幌市 特別支援教育 研究連絡協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌市特別支援教育研究連絡協議会が体育大会を主催 ・多数の障害者団体・スポーツ団体が後援し、50年を超える歴史を持つ
さいたま市立中学校 特別支援学級 合同スポーツ大会	南浦和中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・2日間に分けて、ビーチボールの部と長距離走の部を開催 ・長距離走の部では参加標準記録を設け、生徒の練習・学習意欲の向上を促進
三泗小・中学校 特別支援学級 連合運動会	三重県四日市市 教育委員会 教育支援課	<ul style="list-style-type: none"> ・四日市市・菰野町・朝日町・川越町の1市3町で三泗教育発表振興会を構成 ・三泗教育発表振興会内の三泗特別支援教育研究協議会が中心となり、運動会を開催

札幌市特別支援学級体育大会「レインボーピック」

【特徴】

札幌市特別支援教育研究連絡協議会が体育大会を主催

多数の障害者団体・スポーツ団体が後援し、50年を超える歴史を持つ

1. 札幌市の特別支援学級の現状

札幌市では、小・中学校の約8割に特別支援学級を設置している。2016年5月現在、260校に582学級2,570人が在籍しており、約6割が自閉症・情緒障害、約4割が知的障害の学級である(図表3-2)。特別支援学級に加えて、言語障害を中心とした通級指導教室の設置、2009年には発達障害等に対応した通級指導教室「まなびの教室」を新設した。通級指導教室は、2016年5月現在、小学校では25教室、中学校では8教室が設置されている。

図表3-2 障害別特別支援学級在籍数(2016年5月現在)

	小学校(179校)			中学校(81校)			計(260校)		
	学校数	学級数	在籍数	学校数	学級数	在籍数	学校数	学級数	在籍数
知的障害	152	153	490	70	80	312	222	233	802
自閉症・情緒障害	173	238	1,203	76	104	546	249	342	1,749
病虚弱等	4	3	11	5	4	8	9	7	19
計		394	1,704		188	866		582	2,570

出典：札幌市教育委員会(2016)「札幌市特別支援教育の状況」

2. 札幌市特別支援学級体育大会「レインボーピック」

(1) 概要と目的

札幌市特別支援学級体育大会「レインボーピック」(以下、レインボーピック)は、2016年度で54回目を迎える大会である。2016年度は、札幌市の特別支援学級に通う小・中学生が参加して、札幌市円山陸上競技場で開催された。特別支援学級と通級指導学級を設置している学校長と担当教員で構成される札幌市特別支援教育研究連絡協議会(以下、札特連)が主催し、後援には札幌市小学校長会、札幌市手をつなぐ育成会、札幌市知的障がい福祉協会、札幌市障がい者スポーツ協会、札幌市知的障がい児・者施設連絡協議会、NPO法人さっされんが名を連ねている。

開催当初は参加者が少なく、小・中学校合同で実施していたが、近年の特別支援学級設置校の増加により、現在では小・中学校別々に開催しており、例年、小学校は10月上旬(2016年大会は10月5日)、中学校は9月上旬(2016年大会は9月9日)に開催している。

長年、課題となっていた「単なる行事の消化で終わるのではなく、教育そのものに迫る研究的深まりをどう図るか」をテーマに、第15回大会から「指導の手引き」を作成している。そのな



かで、「合同行事の在り方」に関する指針を明らかにした。指針では、「全市合同の行事」「運動会的の行事」を基本目標として、具現化に向けた指導展開の目安を規定している。

(2) 参加校数および参加児童・生徒数

市内の特別支援学級設置校は小学校が 179 校、中学校が 81 校である。2016 年度は、小学校 164 校 1,634 人、中学校 80 校 850 人が参加した(図表 3-3)。会場となった円山陸上競技場では、参加する児童生徒に加えて、教員、保護者ボランティアが大会の運営補助スタッフとして参加するため、3,000 人以上の関係者で会場は埋め尽くされた。

図表 3-3 レインボーピックの参加校・児童生徒数(2016 年度)

	小学校		中学校	
	学校数	児童数	学校数	生徒数
特別支援学級設置校	179校	1,704人	81校	866人
レインボーピック参加校	164校	1,634人	80校	850人

(3) 実施種目

2016 年度のレインボーピック(小学校)では、準備体操と組体操を全参加者で実施した。その後、学年ごとに徒競走が実施されたが、走行距離などは、事前に各学校の担当者間で打合せを行い、学年・能力などに応じて決定し、基本的には 1～2 年生が 30m または 50m、3～4 年生が 80m、5～6 年生が 100m となっている。同じくらいのタイミングでゴールできるよう、スタート地点を調整したり、走行補助具などを活用し、参加者全員が楽しめるよう工夫している。円滑に大会を運営するため、トラック競技とフィールド競技を同時進行で実施しており、学年ごとに徒競走終了後に玉入れと綱引きを行う(図表 3-4)。

昼食時に実施する有志による「よっちょれ」(よさこい)では、大会前に各学校に音源 CD と図解の踊り方読本を配り、日頃の練習を通じた教師の指導力向上を目的の一つとしている。

参加校はレインボーピックに向けて、約 1 か月前から体育の時間や放課後等を使って練習する。組体操や短距離走では、近隣小学校との合同練習も行っている。



図表 3-4 レインボーピック(2016 年度)プログラム

時間	種目	
9:40	準備体操	
9:45	組体操	
10:15~ (同時進行)	①30m走	終了後、1年生と2年生は玉入れ
	②50m走	
	③80m走	終了後、3年生と4年生は綱引き
	④100走	終了後、5年生と6年生は綱引き
12:00	アトラクション〈よっちょれ(よさこい)〉	
13:00	障害物競走	
13:50	400mリレー	

(4) 運営体制

運営には、総務係、競技係、審判係などの係ごとに実行委員会を構成しており、全体研修会での事前説明に加えて、実行委員会での打合せを通して、参加児童の特徴を共有し、本番を迎えている(図表 3-5)。また、各係のサブ担当者が次年度のメイン担当者になるように配置し、大会終了後には次年度に向けた全体反省会を開催し、円滑な引継ぎを進めている。

図表 3-5 レインボーピック(2016 年)各係の業務職掌

総務係(11人)	実行委員長(1人)	日程作成、実行委員派遣依頼、実行委員会・全体説明会開催など
	副実行委員長(2人)	実行委員会・全体説明会進行、当日連絡網作成、清掃分担計画など
	事務局(2人)	競技場との連絡・調整、委嘱状作成・発送、会計全般など
	特別支援学級部会 レインボーピック担当者(5人)	全体連絡・調整、会場警備・駐車場計画作成、アトラクションの取りまとめ、プログラム作成、選手登録など
競技係(64人)	実行委員長(1人) 副実行委員長(1人)	競技実施案の作成、競技運営全般
審判係(33人)	実行委員長(1人) 副実行委員長(1人)	競技審判、記録と記録整理
用具係(5人)	実行委員長(1人)	競技用具の手配と返却、競技用具の管理
名簿係(10人)	実行委員長(1人) 副実行委員長(1人)	名簿の作成
放送係(4人)	実行委員長(1人) 副実行委員長(1人)	案内放送、放送機器の操作
救護係(2人)	-	応急処置
駐車場係(6人)	-	駐車整理
児童係(多数)	-	児童の整列、安全管理と児童解散の指示

3. 札幌市特別支援教育研究連絡協議会

特別支援教育の実践研修を通し、会員同士の情報交換や社会への啓発理解に努め、札幌市の特別支援教育の振興を図ることを目的に1961年6月に発足した。会員は特別支援学校・特別支援学級・通級指導教室の担当教員、及び設置校の校長・教頭などで構成される。会員数は1,522人(2016年度)である。

(1) レインボーフェスティバル

レインボーピックの他、特別支援学級の児童生徒の日常の作業学習の発表の場として、「札幌市特別支援学級・特別支援学校作品展示即売会(レインボーフェスティバル)」を開催している。1955年に第1回を開催し、2016年度で60回目を迎えた。2014年度までは、旧富貴堂書店(現・札幌パルコ)、札幌駅西コンコース、札幌駅南口広場「アピア」ライラックホール、ラルズプラザ札幌店など、さまざまな会場で開催し、周知啓発にも努めてきた。ただ、毎年会場が変わることに児童生徒が不安を覚えたり、来場者に開催会場が浸透しないことを防ぐために、2015年度より、札幌市資料館にて開催している。

レインボーピックとレインボーフェスティバルの様子を収めた合同文集「元気にあるこう」の発行は、すでに54号を数える。

札幌市特別支援学級体育大会「レインボーピック」

- 事務局：札幌市特別支援教育研究連絡協議会
- 開始年：1976年
- 参加対象：札幌市内の特別支援学級設置校（小学校・中学校）

さいたま市立中学校特別支援学級合同スポーツ大会

【特徴】

2日間に分けて、ビーチボールの部と長距離走の部を開催

長距離走の部では参加標準記録を設け、生徒の練習・学習意欲の向上を促進

1. さいたま市の特別支援教育の現状

さいたま市の公立小・中学校における特別支援学級設置率は38.1%（2013年度）と、他の政令市の特別支援学級設置率（平均84.6%）と比較して低い状況にあったため、2014年度より5か年計画として「第2次さいたま市特別支援教育推進計画」を策定し、環境の改善に取組みはじめた（図表3-6）。計画では、多様な学びの場として「特別支援学級の整備」を最重要課題として掲げ、特別支援学級の新設や増設が進められ、設置率は75.0%まで上昇した（2016年5月現在）。

図表 3-6 さいたま市立小学校・中学校の特別支援学級の現状（2016年5月現在）

特別支援学級	小学校（103校）	中学校（57校）	合計（160校）
設置校数	79校	41校	120校
設置率	76.7%	71.9%	75.0%
学級数	167学級	97学級	264学級
生徒数	689人	350人	1,039人

出典：さいたま市教育委員会「平成28年度さいたま市立学校（園）幼児・児童・生徒数集計」

2. さいたま市特別支援学級合同スポーツ大会

(1) 背景

さいたま市立中学校特別支援学級合同スポーツ大会は、1986年当時、旧浦和市に設置されていた中学校の特殊学級の教員が中心となり「浦和及び近隣中学校特殊学級合同スポーツ大会」として、ビーチボールと長距離走を種目として始められた。目的はスポーツを通じた生徒の交流で、3校が輪番で幹事校となる方法で運営してきた。

2001年にさいたま市に合併後は、現在の「さいたま市立中学校特別支援学級合同スポーツ大会」に名称を変更し、2016年度大会で31回目を迎えた。市の合併により、大会を経験した教員が旧大宮、与野、岩槻地区の異動先の学校で参加を推奨したことと、特別支援学級の新設・増設という要因が重なり、参加校が急増した。2012年度までは、埼玉県障害者交流センターを会場に、午前中にビーチボール、午後に長距離走を実施していたが、参加校の増加により、2競技を一日で終了することが困難となった。また、長距離走では参加者数の増加に伴い、生徒同士の衝突、転倒などへの懸念もあり、運営面、安全面を考慮して、2014年度以降は、ビーチボールは駒場体育館、長距離走は駒場スタジアムに会場を移し、別の日程で開催している。

(2) 概要と目的

合同スポーツ大会は、スポーツを通じた特別支援学級の児童生徒の交流、大会を目標に日頃の練習を通して学習意欲を高めることを目的に開催している。また、参加校の教員同士が体育の授業の指導に関する情報共有を行うことで、教員同士の指導力向上にも繋げている。なお、南浦和中学校、八王子中学校、原山中学校の特別支援学級は、2016年度の3校合同の宿泊学習の事前交流として、原山中学校を会場にビーチボールの交流試合を行っている。

(3) 参加校数および参加生徒数

特別支援学級設置の中学校41校に開催案内を出し、2016年度はビーチボールの部に31校262人、長距離走の部に28校229人が参加した(図表3-7)。参加生徒の約6割が知的障害、約4割が自閉症・情緒障害であった。

図表 3-7 合同スポーツ大会への参加校・生徒数(2016年)

	ビーチボールの部 (2016年11月11日)	長距離走の部(2016年11月25日)			
		男子3000m	女子3000m	男子2000m	女子2000m
校数	31校	28校			
生徒数	262人	109人	24人	47人	49人
チーム数	39チーム				

(4) 実施種目

1) ビーチボールの部

ビーチボールは、ビーチボールを使用しバトミントコートで行うバレーボールに近いゲームである。ボールが柔らかく、スピードが遅いため、障害のある生徒も恐怖心なく取組める。この大会では1チーム5人を原則としているが、少人数の学級でも参加できるように、4人での参加や他校との合同チームでの参加を認めている。2016年度は8校が合同チームで参加した(図表3-8)。

「サーブは主審の笛の合図の後に腰より下から打つ」「一人で故意に連続して打つことは反則」「勢いでネットタッチしても反則はとらない」など、シンプルで分かりやすい独自のルールを設け、障害特性や障害の程度などにも配慮している。競技規定は、チーム編成、大会方式、ルール、審判の役割、予選グループの5項目で構成されており、大会終了後に実施する参加教員へのアンケートを通し、さらなる競技規則の改定を重ねている。



図表 3-8 ビーチボールの部 概要

会場	駒場体育館		
種目	ビーチボール		
表彰	優勝、準優勝、3位、4位のチーム		
日程	8:50	実行委員集合	・各校1人の実行委員を任命する
	9:00	全体集合、着替え、準備	
	9:15	体育館集合・整列	
	9:20	引率職員打合せ	・2016年度大会は70人の引率職員が引率した
	9:30	開会式	
	9:48	ビーチボールバレーリーグ開始	・参加チームをA～Gの7グループに分け、グループリーグで対戦する
	12:12	休憩・昼食	
	13:00	ビーチボール試合開始	
	14:05	決勝トーナメント開始	・各グループの上位2チームが決勝トーナメントに進む
	14:48	決勝試合終了	
	15:05	閉会式・解散	

2) 長距離走の部

円滑な大会運営を図るため、参加標準記録(3000mを20分以内に完走)を設定している。参加校は大会約2週間前に事務局に出場生徒の持ちタイムを報告し、そのタイムにより参加生徒の出場部門(3000mまたは2000m)が決定される(図表3-9)。

各学校では大会出場に向けて、体育の授業や放課後等に長距離走の練習に取り組んでいる。各学校の担当教員は、個人に応じた目標記録を設定するなどして、生徒の意欲向上を促している。数か月かけて、徐々に持ちタイムを更新していくことが生徒の自信と学習意欲の向上につながっている。

図表 3-9 長距離走の部 概要

会場	浦和駒場スタジアム					
種目	男子・女子 3000m	・事前に各学校で3000mの記録を計り、該当種目への申込みを行う				
	※3000mを20分以内で完走できる生徒					
	男子・女子 2000m					
	※3000mを20分以内で完走できない生徒					
表彰	男子1位～10位、女子1位～6位	・賞状の授与				
日程	8:45	実行委員会集合・打合せ	・参加種目変更の確認			
	9:00	全体集合				
	9:10	入場・準備・準備運動・スタートゴール地点確認				
	10:00	開会式				
	10:30	3000m 第1レース(持ちタイム上位の男子生徒)	2016年度 参加人数	68人	2015年度 参加人数	50人
	11:00	3000m 第2レース(そのほか男子生徒と女子生徒)		68人		62人
	11:30	2000m 第1レース(3000mに出場しない生徒)		90人		77人
	13:00	閉会式				
13:20	解散・片付け					

(5) 運営体制

参加校数の増加に伴い、運営ノウハウなどを事務局の輪番制で継承することが困難となり、2013年以降、大会運営の中心的役割を担っていた担当教員の勤務校である南浦和中学校が事務局を務めている。ビーチボールと長距離走に参加する学校の教員で実行委員会を構成している。参加校は、特別支援学級担当教員の中から1人を実行委員として選出し、年1回の実行委員会への出席、および連絡調整を行う。多くの参加校がビーチボールの部と長距離走の部の両方へ参加しているため、実行委員会は3部制としており、1部がビーチボールの部参加校、2部が全参加校、3部が長距離走の部参加校を対象としている(図表3-10)。実行委員会では、大会規則、当日の日程、審判の任命、各学校の役割、対戦組み合わせ等の確認を行う。



図表 3-10 合同スポーツ大会開催までのスケジュール

日程	内容	
2月	次年度の大会会場と日程の確保	
4月～	特別支援学級を設置する市内の中学校(41校)に開催案内を送付	
	申込み締切り(1学期)	
9月～	実施要綱の作成	
	実行委員会の開催(3部制)	
	1部	ビーチボールの部に参加する学校を対象
	2部	全校を対象
	3部	長距離走の部に参加する学校を対象
11月	ビーチボールの部と長距離走の部の開催	
12月	教員に対する事後アンケートを実施し、来年度に向けての反省点を抽出	
	実施要項及び手引きの改善	

さいたま市立中学校特別支援学級合同スポーツ大会

- 事務局：さいたま市立南浦和中学校
- 開始年：1986年
- 参加対象：さいたま市内の特別支援学級設置校(中学校)

三泗小・中学校特別支援学級連合運動会

【特徴】

四日市市・菰野町・朝日町・川越町の1市3町で三泗教育発表振興会を構成

三泗教育発表振興会内の三泗特別支援教育研究協議会が中心となり、運動会を開催

1. 三泗地区の特別支援教育の現状

四日市市・三重郡菰野町・三重郡朝日町・三重郡川越町の1市3町は三泗地区と呼ばれ、市町を越えて教員間で児童生徒の教育活動の連携が図られている。三泗地区における特別支援学級設置校は小学校40校、中学校26校である。

四日市市に限ると、知的障害、自閉症・情緒障害、肢体不自由、弱視、難聴の特別支援学級が設置され、2016年5月現在、小学生369人、中学生168人が在籍している。多くが知的障害と自閉症・情緒障害の児童生徒である(図表3-11)。

図表 3-11 四日市市の特別支援学級在籍児童生徒数(2016年5月現在)

	小学校		中学校		計	
	学級数	在籍数	学級数	在籍数	学級数	在籍数
知的障害	37	173	21	101	58	274
自閉症・情緒障害	40	183	16	60	56	243
肢体不自由	5	6	4	5	9	11
弱視	1	2	0	0	1	2
難聴	1	5	1	2	2	7
計	84	369	42	168	126	537

出典：四日市市教育委員会(2016)「特別支援教育・相談」

2. 三泗小・中学校特別支援学級連合運動会

(1) 概要と目的

2016年度で30回目を迎える三泗小・中学校特別支援学級連合運動会は、三泗地区における特別支援学級の児童生徒の交流を図り、日頃の練習の成果を発揮し、運動を通して達成感を味わうことを目的に開催している。

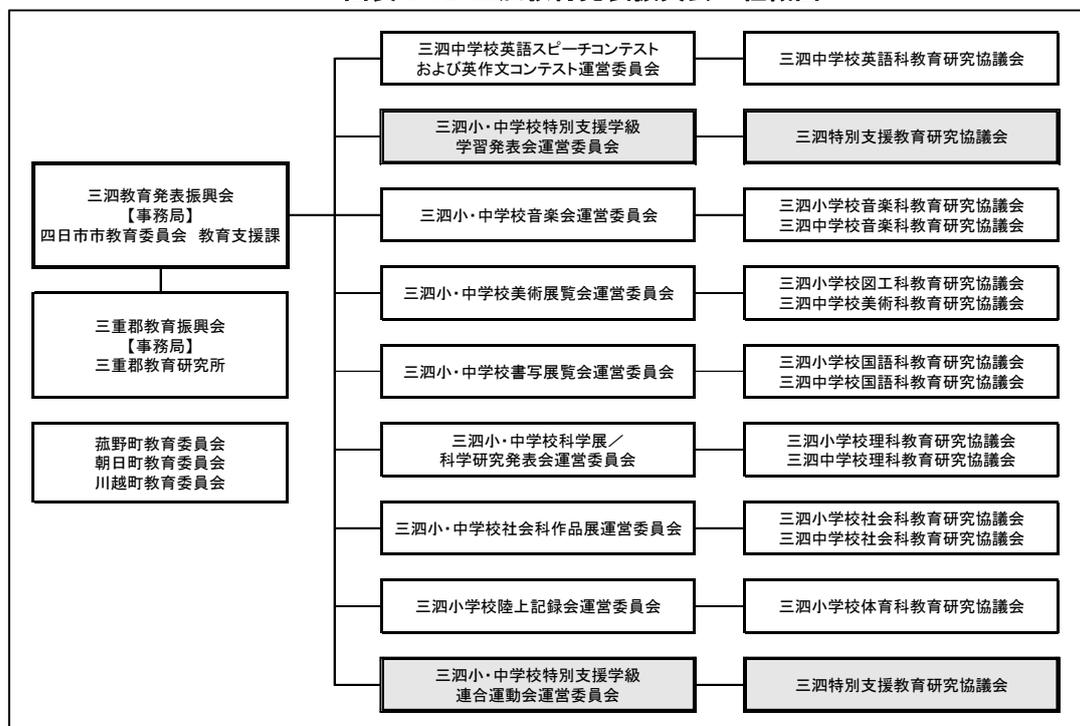
現在大会を主催する三泗教育発表振興会は、1986年、三重県四日市市・三重郡菰野町・三重郡朝日町・三重郡川越町の1市3町の教育振興のために設置された。障害の有無に関わらず、1市3町の児童生徒に対して、音楽会、美術展覧会、書写展覧会等を通して、学習発表の機会を提供している。行事ごとに運営委員会を設置し、運営している(図表3-12)。



その中で、特別な教育支援を必要とする児童生徒に対して、学校教育を通じて様々な経験をさせたいという思いで、三泗特別支援教育研究協議会が中心となり「三泗小・中学校特別支援学級学習発表会」「三泗小・中学校特別支援学級連合運動会」を開催してきた。

毎年10月、平日の午前9～12時に四日市ドームで開催される。

図表 3-12 三泗教育発表振興会の組織図



出典：三泗教育発表振興会 HP(2016)より作成

(2) 参加校数・参加児童生徒数

三泗地区の特別支援学級設置校は、2016年度は小学校40校、中学校26校である。そのうち、小学校38校408人、中学校22校153人が参加した(図表3-13)。特別支援学級の設置校数が増加するに伴い、近年、参加者は増加している。大会には、参加する児童生徒に加えて教員、介助員や保護者が参加するため、約1,000人が四日市ドームに集まる。保護者は親子で参加可能な「かりもの競争」や「めざまし体操」に参加している。障害の程度や個人の体調を理解している各学級の介助員や教員がプログラムへの参加を支援している。

図表 3-13 連合運動会の参加校・児童生徒数(2016年)

	小学校		中学校	
	学校数	児童数	学校数	生徒数
四日市市	30校	305人	18校	127人
三重郡	8校	103人	4校	26人
計	38校	408人	22校	153人

(3) 実施内容

障害の程度や特性に応じてあらかじめ出場種目は決めておくと、当日の朝、体調変化等を考慮して、本人、教員、事務局が相談して最終決定する。また、集中力の持続が難しい児童生徒に配慮して、午前中に全プログラムが終了するように構成している。徒競走では順位を付けず、児童生徒がスタートからゴール、ゴール後の整列まで、教員のサポートにより実行している。また、会場の準備については、四日市ドームをAからJの10ブロックに区分けし、用具の準備等の役割を各学校に割り振るなど、大会運営を工夫している(図表 3-14)。



図表 3-14 連合運動会プログラム(2016年)

プログラム			会場準備		
No.	種目	参加対象	ブロック	担当の中学校数	内容
1	ラジオ体操第一	全員			<ul style="list-style-type: none"> ・音源CD ・コーン ・赤白旗 ・プラカード
2	中学生 80m走・100m走	中学校	I, J	7校	
3	小学生 80m走・100m走	小学校(3年生以上)	A, B, C, D	8校	
4	30m走・50m走	小学校・中学校	E, F	6校	
5	大玉ころがし	【選択】小学校高学年・中学校	G	2校	<ul style="list-style-type: none"> ・大玉4個 ・コーン8個
6	かりもの競走	小学校低学年&保護者	J, A, B, H	10校	<ul style="list-style-type: none"> ・かりもの各種 ・カード(二組)
7	サーキット・くぐったりとんだり	【選択】小学校高学年・中学校	C, D, E	7校	<ul style="list-style-type: none"> ・テニスネット、ゴム紐 ・ボール10個、バケツ10個
8	低学年玉入れ	小学校低学年(1~3年生)	F, G	5校	<ul style="list-style-type: none"> ・赤白緑玉 ・玉入れ籠4×2
9	中学生玉入れ	中学校			
10	高学年玉入れ	小学校高学年(4~6年生)	H, I	5校	
11	めざまし体操	全員(保護者・来賓)			<ul style="list-style-type: none"> ・音源CD

(4) 運営体制

1市3町の教育委員会職員や教員などで構成される10人の役員が、輪番制で運営委員を担当している。大会の企画から当日の運営までを、運営委員と特別支援学級の担当教員が合同で行っている(図表 3-15)。四日市みなとライオンズクラブは、青少年健全育成事業の一環として、大会への寄付などの財政支援のほか、ビブスやスポーツ用具等の物品提供も行っている。

運動会の事前練習では、音楽の授業において「運動会の歌」の歌唱指導、体育の授業において「ラジオ体操第一」「めざまし体操第3(手のひらを太陽に)」のダンス指導を行っている。

図表 3-15 連合運動会開催までのスケジュール

日程	内容
6月下旬	役員会議(10人)で 運営方法についての打合せ
7月上旬	各学校に連合運動会を周知
	1学期終了までに、各校が参加を申込み 保護者が児童生徒を送迎できない場合は、学校単位でバスをチャーター
夏休み期間中	参加校の担任教員に対する研修会を開催し、当日の運営に関する説明
9月～当日まで	各学校で連合運動会へ向けた歌体操等の事前練習

3. 三泗特別支援学級学習発表会

毎年 2 月、四日市市文化会館にて三泗地区小・中学校特別支援学級設置校を対象に開催している。日常の学習活動の成果を発表することで達成感を感じ、他校の発表内容を鑑賞・見学することで交流を図ることを目的としており、ステージ発表(合唱・器楽演奏・劇など)と作品展示(平面・立体作品など)が行われる。当初、「卒業生を送る会」として卒業を控えた小・中学生の歌やダンスの発表機会を提供していたが、在校生にも発表の場を提供するため、1986 年以降、「学習発表会」として開催することとなった。

三泗小・中学校特別支援学級連合運動会

- 事務局：三重県四日市市教育委員会 教育支援課
- 開始年：1986 年
- 参加対象：三重県四日市市・三重郡菰野町・三重郡朝日町・三重郡川越町の
特別支援学級設置校（小学校・中学校）